

「名東区民のつどい」を取材しました！

2008年12月11日(木)に名東文化小劇場において、名古屋市長の松原武久氏をはじめ、300名以上の区民のみなさんが集まり「名東区民のつどい」が行われました。チーム名東は壇上で活動報告を行うとともに、チーム名東代表の山田真紀准教授(教育学部)がシンポジストとして登壇しました。この様子を取材チーム、相山女学園大学教育学部2年生の寺西彩乃・原田恵里がレポートします！



チーム名東とは、大学生と区役所が連携して新しいまちづくりを進めていく新しい試みで、多くの期待と関心を寄せていただいています。「区民のつどい」に先駆けて、中日新聞も大きく取り上げていただきました。チーム名東の発表は、次の2部構成。1部はこれまで取材を続けてきた名東区内で開催された10以上のイベントの概要をご紹介しますもの。2部は、チーム名東が名東区役所と協力して実施した「区民アンケート」の概要をご紹介しますもの。区民アンケートでは、地域の子供達やその保護者が「治安と安全」に大変高い関心をもっていること、そして「子どもの安全を確保するためにパトロールの体制を確立してほしい」「夜道が危険なので街灯を増やしてほしい」「子どもの交通事故を未然に防ぐため、ガードレールや信号や歩道の整備を進めてほしい」という意見が多数寄せられたことなどを紹介しました。

チーム名東の発表は大成功で、会場のみなさんから「これからも若いパワーをまちづくりに生かしてほしい」「大変立派な報告書で、これから家に帰ってじっくり読みたいと思います」等、あたたかい声をかけていただきました。



今回、名東区区民のつどいに参加して、地域づくりには、地域で活動している人・市民団体など志をもった人・行政に関係している人など、さまざまな方が関わっていること、このような「志(こころざし)」をもつ人々がいるからこそ、私たちは地域で安心して暮らせるということが分かりました。チーム名東も活動報告の時間をいただき、発表することができ、よい機会をいただけたと喜んでいきます。